



議会だより



△ 元気に歌や踊り、劇などを披露した生活発表会《有住保育園》

主な内容

- ▷ 12月定例会で決まったこと ————— 2～3ページ
- ▷ 7名が一般質問 ————— 4～10ページ
- ▷ ズームイン ————— 11ページ
- ▷ 「住民と議員との懇談会」 ————— 12～13ページ
- ▷ 特集「『町民の足』確保対策」 ————— 14～15ページ
- ▷ 私もひとこと・甘口辛口 ————— 16ページ

第128号

平成22年1月25日

発行・住田町議会

編集・議会広報編集特別委員会

世田米小・有住小に

太陽光発電システムを設置



△ 地球温暖化防止への貢献や環境学習への効果などが期待される太陽光発電システムを世田米小学校と有住小学校に設置

12月8日から14日までの会期で開かれた定例議会では、予算の補正、教育委員の任命の議案が提案され、全議案を原案のとおり可決しました。
請願2件は採択とし、発議された意見書を可決しました。
一般質問は7名で、質問と当局の答弁の概要については、4ページから10ページに掲載しました。

予算の補正

補正予算の主な項目と金額は、次のとおりです。
(※千円以下は切り捨て)
▽一般会計(7号)
◇歳入◇地域活力基盤創造交付金 8,455万円増
財政調整基金繰入金 5,360万円、地域活性化・公共投資臨時交付金 3,357万円増、安全・安心な学校づくり交付金 2,421万円、岩手県後期高齢者医療広域連合療養給付費過年度負担金返還金 1,052万円、地方道路整備臨時交付金 1億2,610万円減、子育て応援特別手当交付金 432万円減
◇歳出◇小学校太陽光発電システム導入事業 6,277万円、太陽光夜間照明設置工事費 5,000万円、養護老人ホーム委託料 502万円増、種山ヶ原水道施設膜ろ化設備リース料 197万円、道路新設改良費 6,058万円減、下水道事業特別会計繰出金 483万円減、子育て応援特別手当 432万円減など。
◇総額◇5,745万円増額し、総額を4億4,398万円に。
▽簡易水道事業会計(4号)

簡易水道配水管移設計業務委託料など7万円減額し、総額を2億65万円に。
▽下水道事業会計(3号)
消費税など324万円減額し、総額を1億2,723万円に。
▽介護保険会計(3号)
◇保険事業勘定◇一般高齢者施策嘱託職員報酬など37万円増額し、総額を6億3,173万円に。
◇サービス事業勘定◇ケアマネジメント業務委託料などを組み替え。

人事

▽教育委員の任命同意
教育委員会の委員に、佐賀篤さん(川向・新任)を任命することに同意しました。

請願と意見書

請願2件を採択し、それに伴う意見書2件が議員発議され可決しました。意見

書は、議長名で関係大臣などに送付しました。
▽2010年度の年金確保に関する請願(請願者 盛岡市・全日本年金者組合岩手県本部・執行委員長・小松原進、外1名)
「公的年金等控除の縮小や、医療・介護保険料の上昇などにより、可処分所得

が激減し、高齢者の生活は厳しさを増している。今年消費者物価指数の低下が伝えられ、政府が年金減額を行うことが懸念される。さらなる生活圧迫を引き起こす年金の減額改定を回避するため、意見書を政府に提出されたい」との請願を採択し、意見書を発議し可決

しました。
▽EPA・FTA推進路線の見直しを求め日米FTAの推進に反対する請願(請願者 下住字中上・住田町農民組合・代表・佐藤稔)
「現在、穀物の国際相場は再高騰の流れにあり、世界の食糧状況は、ひっ迫した状況にある。輸入自由化

万能論の立場では、深刻な世界の食糧問題を解決できないことは明らかである。EPA・FTA推進路線を見直し、アメリカとのFTA交渉は行わないことを求める意見書を政府等に提出されたい」との請願を採択し、意見書を発議し可決しました。

新型インフルエンザ 予防接種補助金を計上

臨時議会

11月2日、臨時議会が招集され、一般会計補正予算を可決しました。
11月27日の臨時議会では、専決処分の報告、条例の改正、予算の補正が提案され、全議案を可決しました。
(※千円以下は切り捨て)
▽一般会計(5号)
新型インフルエンザワクチン接種補助金など1,219万円増額し、総額を47億219万円に。
(11月27日 臨時議会)
専決の報告
▽岩手県自治会館管理組合を組織する地方公共団体の数の減少の協議に関する専決処分の報告

▽岩手県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び組合規約の一部変更の協議に関する専決処分の報告
▽岩手県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び連合規約の一部変更の協議に関する専決処分の報告
平成22年1月1日をもって宮古市に編入する川井村を12月31日をもって脱退させることなどの協議の専決処分の報告。
条例の改正
▽一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正
県人事委員会勧告に準じ、一般職の職員の給料、期末勤勉手当額を改定、自宅に係る住居手当を廃止するも

の。
▽特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正
国の例に準じて、特別職の職員の期末手当の支給割合を改定するもの。
予算の補正
(※千円以下は切り捨て)
▽一般会計(6号)
一般職と特別職の職員の給与改定に伴うものなど、1,566万円減額し、総額を46億8,653万円に。
▽簡易水道事業会計(3号)
一般職の職員の給与改定に伴い13万円減額し、総額を2億72万円に。
▽下水道事業会計(2号)
一般職の職員の給与改定に伴い13万円減額し、総額を1億3,048万円に。

気仙議員協議会で 県知事に要望

10月29日、大船渡地方振興局で、住田町、大船渡市、陸前高田市の3議会が構成する気仙地区議会議員協議会が、県知事に要望を行いました。
3議会の正副議長が出席し、次の7項目を要望しました。
▽地域医療体制の強化・充実について
▽気仙地域への県営拠点工業団地の整備促進について
▽松くい虫被害防止対策について
▽主要地方道大船渡綾里三陸線の改良整備及び小石浜トンネル開削の促進について
▽三陸縦貫自動車道の整備促進について
▽県営津付ダムの建設促進について
▽中高一貫教育校モデル校の設置について

県町村議会議長会 60周年を迎える

9月30日、盛岡市の岩手県民会館において、岩手県町村議会議長会の創立60周年記念式典が開催されました。

岩手県町村議会議長会は、昭和24年8月に全国都道府県の町村議会議長会と足並みを揃えて創立され、平成21年で60周年を迎えたものです。
創立時は218町村でしたが、昭和や平成の大合併を経て、平成22年1月現在では21町村議会となっています。

12月定例会の一般質問は12月8・9日に行われ、7議員が質問しました。内容を要約してお知らせします。

私たちの願いを込めて



△ 世田米商店街の活性化を目的に「軽トラ・ワゴン市」と合同開催している「青空市」

どうする

観光産業

当町の活性化策の一つには観光産業の元気が必要と考えることから、次の点を伺いたい。
1、軽トラ・ワゴン市と青空市の今年度の開催状況と今後の方針はどうか。
2、アツモリソウの保護、増殖の現在の取り組み状況と、今後の方針はどうか。

か。
3、滝観洞の利用状況と今後の施設整備の方針はどうか。
4、遊林ランド種山の利用状況と今後の運営や施設整備の方針はどうか。

誘客増に向けて

町長 青空市、軽トラ・ワゴン市は、世田米商店会がテントを利用した青空市部門を、産直市組合が、自動車を利用した軽トラ・ワゴン市部門を担当して、春夏2回合同で開催している。今年からは、町外者の参加も可能とし、町外から数店舗の出店があり、業種も多様化して、さらに賑わいも出てきている。

アツモリソウは、平成18年度に里親制度を制定し、平成20年度にはアツモリソウ将来構想を策定して、保護や増殖に努めている。かつこ花を守る会が、株分け講習やアツモリソウ園の管理、運営、鑑賞会など

を行っており町が支援している。
アツモリソウ研究会は、町からの委託で、栽培に関する調査・研究と実生増殖、バイオ苗による順化試験に取り組んでいる。
滝観洞の入洞者数は、平成20年にインターチェンジの開通により1万6千人に増加している。
今後の施設整備は、安全対策、施設老朽化への対応などを中心に行い、町外、県外に向けた宣伝、PR活動を関係機関と連携を図りながら誘客増に向けた取り組みを行っていききたい。
遊林ランド種山の利用状況は、平成20年度で、風呂レストラン利用者が2万5千人となっている。
オープン当初から横ばいで推移しているが、定休日の廃止や、夏場の夜間営業の実施、無料バスの運行などを行って集客を図っていただいている。

街路灯に

LEDを

1、CO₂削減のためには、さまざまな手段や方策があるが、提案したいのはLED（発光ダイオード）の照明の導入である。青色照明灯には、気持ちを下落着かせる効果があり、自殺や犯罪抑止にも効果があると言われている。消費電力の削減効果が大きく、環境にやさしいLEDを街路灯に取り付けはどうか。

状況見ながら検討

町長 当町の街路灯は、蛍光灯を使用している。LEDは、ランニングコストは安い、初期の設備費用や機器が高い。

今後は、機器の普及により単価が下がってくるの見方もあるので、市場価格の状況などを見ながら検討をしていきたい。

中高一貫校の見通しは

少子高齢化は当町において、深刻さを増している。町の将来を担う子供たちの教育のあり方を再考する時期にきていると考えるから、次の点について伺いたい。

1、中高一貫校はいつまでに実現するのか。現実的に次の手段を考える時期にきていると考えるが、どうか。
2、住田高校の定員割れが続けば、高校自体が無くなる可能性が高い。
さらにも増した魅力づくりが必要と考えるが、アイデアはあるか。
3、部活動の存続や指導体制の合理化などを考慮し、町内の中学校を一つに統合する時期にきていると考えるがどうか。
将来的には小中一貫教育を目指すべきと考えるがどうか。
4、学校の跡地を、特別養護老人ホームなどに利用しようという考えはないか。

要望活動を継続

教育委員長 本町では、県立併設型の中高一貫校を目指して現在まで要望活動を継続している。少子化が進み小規模校としての住田高校の維持や中学校2校の維持が困難な状況を迎える事を考えれば、教科担任の配置、施設の効率化、教育環境の面から、県立併設校というメリットは大きく地域における高校教育の機会均等と地域振興の基盤としても、過疎地域にこそ必要であり、なぜ岩手では出来ないのか、という点を強調し、今後も強く訴えていく。

本町では、住田高校教育振興会を通じた支援を行ってきており、地元自治体として住田高校の魅力づくりを率先して取り組んできた。高校の設置者は県であり自ら率先して取り組む責任

がある。意に反して、分校化、統合化と言うのは教育の機会均等、県土の均衡ある発展の視点から見てどうなのか。強く権利を主張していく。
学校の統合は、合理化や効率化など、教育以外の目的で行うものではなく、教育環境や義務教育を受けるにふさわしい環境整備をする為に行われるべきと考えている。検討の時期に入っている事は確かだが、統合には保護者や地域の合意形成が図られる事が優先的な条件だと考えている。

現段階における本町教育振興の考え方の中では、小中一貫教育は想定していない。

町長 特別養護老人ホームすみた荘の移転改築は、社会福祉法人鳴瀬会の理事会などで検討されており、町と議会に要望も出されているが、法人として決定されている事項はなく、場所や建物の内容、事業費や財源など具体のものにはなっていない。
学校のあった所は地域の中心であり、運動会など、地域の拠り所でもあり、町が先行して用地に選定する

一般質問の内容

(通告・登壇順)

- ◇林崎幸正議員
 - ・中高一貫校の見通し等
 - ・目標値を掲げた成長戦略
- ◇村上 薫議員
 - ・本町の公共交通対策
 - ・教育環境整備
 - ・来年度予算編成
- ◇佐々木春一議員
 - ・農業政策
 - ・地域医療
- ◇菊池 孝議員
 - ・平成22年度の施策
- ◇泉田是重議員
 - ・観光振興
 - ・LEDの導入
- ◇阿部祐一議員
 - ・農業振興
 - ・町民の生活支援対策



林崎幸正議員

少子高齢化は当町において、深刻さを増している。町の将来を担う子供たちの教育のあり方を再考する時期にきていると考えるから、次の点について伺いたい。



△ 平成21年度は80人の募集に対して55人が入学した県立住田高等学校

学校のあった所は地域の中心であり、運動会など、地域の拠り所でもあり、町が先行して用地に選定する





千田明夫議員

未来の目標値を示せ

本町の未来の夢、希望を繋ぐべく具体的な目標値を掲げた地域成長戦略が必要と考えることから、次の点について伺いたい。

1、「自立・持続」の方針のもと総合計画に基づく振興策を図っているが、町長任期の4年後（2013年）、さらには10年後（2019年）、30年後（2039年）の町民所得と人口の目標値をどう捉えているか。

2、上記の目標達成のため、今後4年間、何を最も必要と考え、それをどのような施策で実行しようとするのか伺いたい。

3、上記の目標達成のため、さらなる町民生活の総合的な安全・安心の環境整備の充実が必要と考えるかどうか。

4、上記の目標達成のため、さらなる積極的な広域連携の取り組みが必要と考えるかどうか。

5、上記の目標達成のため、新たな産業創出のため、

数値設定は困難

町長 町総合計画の中でも当初から数値目標を出していない。人口減少に対する歯止めをかけることは困難という見方をしており、目標値の根拠を考えたとき、いろんなことで弊害が出てくる。

環境整備が急務と考えるかどうか。

6、上記の目標達成のためソフトパワー戦略となるべき人材を内外や外国人問わず広く公募し、産業創出特命チームを作るべきと思うかどうか。

地域間競争が一段と増す中で、これまで以上に地域資源を活用した産業振興が最も必要と考える。特に地域産業を担う人材確保と育成、産業間の連携、高齢者労働力の活用による持続的発展に努める。新たなビジネスの開拓、地域資源を生かした観光や、住田ブランドの創出による産業振興にも努める。

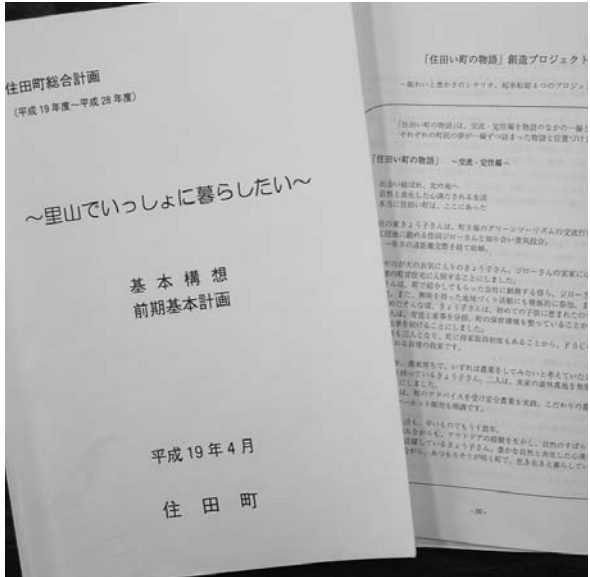
当町では、安全・安心の面で、大きな災害、犯罪、事故などもなく推移。ラジオ放送を聴けるシステムに

なっている。周知を図りたい。可視化されにくいネット犯罪にも注意喚起などの検討を加える。

雇用や産業振興において当町だけで完結するのではなく、定住できる環境づくりを進めながら、広域的な連携が必要。観光面では、三陸・気仙観光協会などの組織、遠野釜石などの近隣市町村も視野に、大きな取り組みとして花巻圏や釜石線沿線の市町村など広い広域圏での取り組みも計画。

農業においては、独自産業型の経営を行う加工組合の設立支援、誘致企業と農家の連携の支援。林業においては、環境面、CO₂の削減の面で、オフセット・クレジット制度への取り組みを検討。他市町村でも取り組みない隙間を貫いた産業の振興に取り組んでいる。

今後の行政運営における政策課題など、特に産業創出を初めとする各分野においても、さまざまな人材の活用を図るとともに、必要に応じてプロジェクトチームをつくる。人を育てるための投資は積極的に進める。



△「産み」「育て」「守る」を基本として循環型の町づくりを目指して策定された住田町総合計画

基幹産業にどう取り組む

1、本町の基幹産業である農林業、特に農業においては昨年より実施している山菜加工について、どのように来年度は取り組もうとしているのか。

さらに、入山に対する条例化の考えはどうか。

2、昨年誘致した株式会社九州屋が農産物の流通を担っているが、いつまでも少量多品目では効果が上がらないと考える。来年度は、法人などを組織し、計画的な生産を行うべきと考えるかどうか。

元年あたりの未回収部分の不納処理の考えはどうか。

農産物生産拡大に支援

町長 山菜加工は、流通販売先の出現で需要が見込めるため、加工販売団体を支援しているが改善点もある。来年に意欲を持っており継続生産拡大に期待し支援。

タケノコ加工は、竹林整備を町が主体でモデル的に実施し、生産環境整備、生

産者の拡大に支援している。入山規制の条例化は、自家用や交流の機会でもあり現段階での考えはない。

計画的な農産物生産は、株式会社九州屋と盟友会が協議し、年間生産出荷を計画している。

法人などの立ち上げは、生産に携わっている方々と十分な話し合いをしながら、生産拡大に支援し、現場と一体になって進めていく。

畜産価格安定基金の平成20年度の発動状況は、プロイラーで12月に補填金1,013万4千円、肉用牛で1,990万円、肉豚で10月から3月に7,676万8千円程であり経営への効

果は大きいものと考え。基金は、発動が多くなった分、枯渇する心配があるが、プロイラー、肉用牛は既に積み立てて基金造成している。肉豚は補填の対応を検討しているが、町単独では不可能に近く、国の資金も入れ造成する必要がある。現在、県・基金協会の方で国へ新たな基金造成について要請している。

滞納回収は、経済が悪く職を失う方、病气やケガなどで働けなくなつた方、個々の状況に応じた対応が必要と考えている。納税が厳しい方には納税計画を作り、預貯金、保険、給与、さらに財産の差し押さえを実施し、滞納処分強化と滞納額の圧縮に努めていく。

税外は、納付相談をしながら納付誓約や支払督促などを行い、調査の上、税と同様の法的手続きを行う。

回収額は、中期財政計画で町税の回収目標は、年平均200万円であり努力したい。

不納処理は、滞納者の人々の状況を見定め、洗い直しをしている。回収するすべがないものは、不納欠損処理を考える。

議員の動き

- 9月25日 県町村議会議長会 定例理事会・政務調査会 盛岡市 議長
- 9月28日 町雇用促進委員会 住田町 高橋靖、菊池孝
- 9月30日 県町村議会議長会 創立60周年記念式典 盛岡市 議長外12名
- 10月2日 生涯学習推進本部 会議 男女共同参画推進本部会議 住田町 泉田是重
- 10月8日 暴力団追放県民大会 大船渡市 議長
- 10月9日 産業経済常任委員会 住田町 委員
- 10月16日 県町村議会議長会 委員長研修会 盛岡市 泉田是重、林崎幸正、阿部祐一、村上薫、千田明夫
- 10月20日 議会広報編集特別委員会 住田町 委員
- 10月20日 緑と潮風のリアス・ハイウェイ早期実現大船渡大会 大船渡市 副議長
- 10月21日 企業訪問 東京都内・横浜市 議長
- 10月29日 県に対する気仙地区議会議員協議会要望 大船渡市 議長、副議長
- 10月29日 県町村議会議長会 議長会広報担当者研修会 雫石町 泉田是重、阿部祐一、佐々木春一
- 11月4日 全員協議会 住田町 議長外13名
- 11月4日 総務教民常任委員会・産業経済常任委員会 住田町 委員
- 11月4日 県南地区町議会議長会議員研修会 金ヶ崎町 議長外13名
- 11月9日 県南地区町議会議長会行政視察研修会 長野県 議長、副議長
- 11月10日 県町村議会議長会 定例理事会・政務調査会・臨時総会 東京都 議長
- 11月11日 県町村議会議長会 県選出国会議員との懇談会 町村議会議員全国大会 東京都 議長、副議長
- 11月21日 東北横断自動車道 釜石秋田線及び三陸縦貫自動車道等整備促進若手県総決起大会 釜石市 議長外13名
- 11月25日 町勢功労者表彰式・町功績者感謝状贈呈式 住田町 議長外10名
- 11月26日 気仙広域連合議会 定例会 大船渡市 泉田是重、村上薫
- 11月26日 岩手県後期高齢者医療広域連合議会定例会 盛岡市 副議長
- 11月27日 大船渡地区環境衛生組合議会定例会 大船渡市 高橋靖、菊池孝
- 11月27日 大船渡地区消防組合議会定例会 大船渡市 林崎幸正、阿部祐一
- 11月30日 岩手沿岸南部広域環境組合議会定例会 大船渡市 高橋靖、菊池孝
- 12月1日 議会運営委員会 住田町 委員



菊池孝議員

3、畜産価格安定のための3つの補助事業があるが、基金が底をつく状態と聞いている。どの程度発動され、畜産農家に寄与されたのか。

今後どのように取り組もうとしているのか。

4、税及び税外の滞納額の回収は、来年度どのように回収をしようとしているのか。また、どの程度の回収額を見込んで取り組むのか。さらに、平成



△ タケノコの生産拡大を目指しモデル的に竹林を整備



村上 薫議員

動き出した町民の足対策

国土交通省は11月13日、少子高齢化や地球温暖化対策などに対応した交通体系の将来像を示す「交通基本法」制定に向け、検討の初会合を開いた。このような中、本町の公共交通対策が本格的に動き出したことは大変時宜を得た事と評価をする。よって、次の点を伺いたい。

1、今回の説明会で行った見直し案の内容と今後の工程計画はいかなるものか。

2、大股暇畑地区に導入する新たな交通手段としての過疎地有償運送の内容はいかなるものか。

1年間は実証期間

町長 意見交換会での内容は、大きく2つの決定事項



△ 新たな公共交通体系システムにより「町民の足」を確保

と2つの見直し案からなる。決定事項の1点目は、県交通が運行している大船渡盛岡線。荷沢峠経由については休止とし、全ての便が赤羽根峠経由により運行される。2点目は、県交通が運行している陸前高田住田線。川口から八日町までの区間の運行を休止する中身見直し内容は、住田交通が運行している遠野住田線。大船渡盛岡線の全便が赤羽根峠経由で運行される状況を踏まえ、運行内容の見直しを検討した。

今後の工程は、最終的に有職者や関係団体などで構成する地域公共交通会議で協議をし、本町の公共交通体系の見直し内容を確定、県交通のダイヤ改正に合わせ22年春からの運行開始を目指す。この1年間を実証期間とし、さらに改善を加えていく。

大股暇畑地区の過疎地有償運送は、県交通大船渡盛岡線の荷沢峠経由の休止に伴い、当地区の住民に不便が生じる。仮に過疎地有償運送制度を導入したいとの地元の意向が示されれば、町として協力をし住民の足の確保に努めたい。

どう対応する

教育行政

鳩山新政権は教育に力点を置いている。激変する教育行政への対応は待った無しである。よって、次の点を伺いたい。

1、地方分権時代における教育委員会の在り方はどうあるべきか。

2、教育事務所再編計画は町の教育行政にどのような影響を及ぼすか。

地域の実情に即し対応

教育委員長 地方分権時代における教育委員会制度は、国が進めてきた義務教育の方向性に画一性や学力格差などが指摘されてきたために、中央教育審議会の様々な部会で審議されてきた。制度自体は、教育における政治的中立性の確保、継続性・安定性の確保、地域住民の意向と反映の実現など、制度の意義を確保しつつ全国的な教育水準の確保、市町村や学校の自由度の確立、保護者や地域住民の参画拡

何を学ぶ

事業仕分け

政府の行政刷新会議は国民監視の前で事業仕分けを行った。よって、次の点を伺いたい。

1、政府の事業仕分けから町の予算編成に学ぶべきものは何か。

見直しの契機

町長 事業仕分けは、外部の視点によって事業のあり方を根本から検討し、事業の拡大・充実・改善・廃止など、見直しの契機として活用するには大変有効な手段。しかし、当町には必ずしも馴染むものではないと思っている。



阿部祐一議員

農家戸別補償の方向は

政権交代により来年度からは農家戸別所得補償制度が実施されることから、次の点を伺いたい。

1、米の販売農家全部が対象となるが、どのような制度となるのか。

2、町内の生産農家への制度の周知や参加の有無の確認をどう進めるのか。

3、国では自給率向上対策として、水田を有効利用する麦、大豆、米粉、飼料用米の生産に力を入れている。飼料用米であれば、10a当たり8万円の助成となっている。町内でも取り組むべきでは。

4、町内にはブローラー、養豚、肉牛、乳牛と畜産が多い。ほとんど輸入飼料に頼っている。米粉、飼料用米の利用促進に早急に取り組むべきでは。

制度の周知徹底を図る

町長 米の生産数量目標に即した生産農家で水稲共済に加入した農家、前年度の



△ 平成22年度から実施される「農業者戸別所得補償制度」の内容を伝える新聞記事

町民の生活 支援策示せ

昨年からの経済不況により町内の経済は深刻な影響を受けている。今年の4月には国の定額給付金事業が行われたが、子育て支援対策は政権交代により来年度以降となった。町内の子育て、高齢者世帯は、さらに経済的に厳しいと思われることから次の点を伺いたい。

1、町長はこの経済不況をどう捉えているのか。

2、来年度から行われる子ども手当を町独自で今年度から行う考えはないか。

3、昨年まで福祉灯油の支給があったが、高齢者や介護世帯に生活応援施策を実施する考えはないか。

子育てを応援

町長 今回の不況は即時的に影響が出ている。再建途上の三陸木材も前半の利益を放出する状況になった。町外に雇用を求めていた方々がリストラに遭い就業で

きない状況にある。住田高校の就職希望の生徒が今年はまだ内定していない生徒が何人かいる。中小企業向けのセーフティネットの借入は30件に増えている。国の経済対策を受け、建設事業を増やしている。緊急雇用創出対策事業などにより公共事業の積極的な実施と雇用機会の創出を図ってきている。

子ども手当の町独自の先行実施は、国の費用負担、所得制限など方針が決まっていないこともあり、難しいと考えている。

町独自では8月から実施している中学生までの医療費の無料化の継続など、安心して子育てができるよう応援を続けたい。

福祉灯油は、19、20年度は灯油価格の高騰があり、緊急的な支援策として実施したが、本年度は価格変動が少なく考えていない。

生活応援策は、介護世帯では施設利用や介護サービスを利用しない家族が介護する世帯に年間10万円の助成、障害者と同居して常時その介護に従事している人にも年間10万円の助成制度がある。



佐々木春一議員

戸別所得補償政策の内容は

民主党政権のもとで農業政策がどう具体化されるか、重要な局面にさしかかっている。政府が農政の最重要課題としている農業者への戸別所得補償政策の内容が明らかになってきていることから、次の点を伺いたい。

- 1、戸別所得補償政策が、当町農業にどのように影響すると捉えているか。
- 2、従来の水田転作奨励金に相当する水田利活用自給力向上事業は、当町の水田利活用にどのように生かされる見通しか。
- 3、当町では集落営農を推進し、農業振興会単位に水田農業ビジョンを作成し、地域に応じて柔軟に対応してきたが、見直しが必要か。
- 4、戸別所得補償制度の導入と連携して、日米FTA（自由貿易協定）や日豪EPA（経済連携協定）



△ 地域医療の再築に向けて検討が進められている地域医療対策協議会

の推進、WTO（世界貿易機関）交渉の早期妥結などを唱えているがどのように捉えているか。

22年度はモデル事業で

町長 戸別所得補償政策は、平成23年度からの本格実施に向けて、主食用米を対象に、モデル事業として、平成22年度から事業導入される。

米の生産数量目標に即した生産を行った販売農家で水稲共済に加入した農家、前年度の出荷先などとの契約状況を申告した共済未加入者を対象として交付金を支給する内容である。

水田利活用自給力向上事業は、転作作物に応じた全国統一単価による面積助成となり、10アール当たりの交付単価は、麦・大豆・飼料作物で3万5千円、米粉用米・飼料用米で8万円、そば・菜種・加工米で2万円、その他の作物が1万円となっている。

水田農業ビジョンは、町の水田農業ビジョンをもとに各農業振興会単位に、集落の特産品開発や遊休農地の解消といった課題など

農業振興の指標として必要性を認識している。外国との農産物輸出入については、政府の考え方としては、食の安全・安定供給、食糧自給率の向上、国内農業・農村の振興などを損なうことはないとしていることから、交渉の成り行きを注目している。

どうする

地域医療再生

1月から住田地域診療センターに内科医1名が配置され、常勤医2名体制となることから、地域医療再生に向けた取り組みについて伺いたい。

- 1、町としての支援をどのように考えているか。
 - 2、初期救急医療の確保をどのように考えるか。
 - 3、食の安全、食育などを通じた予防医療に取り組む考えはないか。
- 町長 安心して医療・福祉

空き病床の活用を

サービスが受けられる環境づくりに、住田地域診療センターの空き病床を利用して、療養者用短期宿泊施設と訪問看護ステーションの設置を検討するなど、地域医療の再構築に向けて努力する。

急病や症状急変時には、基幹病院である大船渡病院に搬送されている。町内では、夜間・休日の診療は行われていないことから、住田診療センターでの一時医療、初期救急に対応できる体制充実についても県に強く要望している。

町民には、救急での病院の受診のあり方や救急医療現場の状況を理解していただきたい。

食の安全・安心の普及啓発、バランスのとれた食生活の推進し、規則正しい生活習慣の確立と食育事業を通して健康づくりが図られるように取り組む。

医療、福祉との連携については、住田診療センター、開業医の先生、福祉サイドと一緒に地域医療問題懇談会のような形で定期的に情報交換を持ち、訪問介護を含めた地域の連携をつくっていく。

ズーム・イン

新しい課題に取り組む



地域課題解決のための要望活動や視察研修などにズーム・インしました。



△ 300人を超える町村議会議員が出席して岩手県民会館で開催された岩手県町村議会議長会創立60周年記念式典



△ 西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、藤沢町、住田町の5町議会で構成する県南地区町議会議長会で、金ヶ崎町の関東自動車工業㈱岩手工場を視察研修



△ 気仙地区の重要課題について、大船渡市、陸前高田市、住田町の3市町議会で構成する気仙地区議会議員協議会にて、県知事に対して要望活動を実施



△ 町の重要課題に対する施策や事業について、当局から説明を受ける議会議員全員協議会



△ 改修工事が行われている運動公園の工事現場において、全議員が参加して工事の進捗状況を確認

— 住民と議員との懇談会 —

どうなる自立の町づくり

— 急がれる鳥獣被害対策 —

平成二十二年「住民と議員との懇談会」は、十一月五日から二十四日まで、十六自治公民館・十三会場で開かれ、たくさんのご意見や要望のほか、議員に対するご提言をいただきました。主な項目について要約して報告いたします。



△ 16自治公民館・13会場で、延べ203人が出席して開催された「住民と議員との懇談会」

滝観洞の活性化策は

大洞公民館

- ①滝観洞インターができて1年になる。改良計画、活性化の方策は。
- ②公民館のテレビへの地上デジタル化に切り替え助成はあるのか。
- ③昨年地域づくりフォーラムが行われたが、どのような効果があったのか。
- ④箱根沢入口が出水により土砂がたまり通行に不便となっている。
- ⑤JR駅への近道の木橋が落ちる寸前になっている。

シカ、ハクビシンの被害対策を

火の土公民館

- ①町道火の土線の高瀬から

どうなる診療センター

曙公民館

- ①新型インフルエンザの町助成と接種補助金の申請方法を教えてほしい。
- ②住田高校の来年度の入学者確保と存続は大丈夫か。
- ③国道340号火石付近の歩道の段差、がたつきが激しい。
- ④無床化後の住田地域診療センターの今後の行方は。
- ⑤子供たちの遊び場が近くにない。確保策はないか。
- ⑥町の一人当たりの借金はいくらか。

すみた荘の待機者は

愛宕公民館

- ①無床化により入院となると家族の通院等が大変である。補助ができないか。
- ②無床化後の空きベッドの利用はどうなる。
- ③多目的グラウンドと河川敷を利用した子供が遊べる大きな施設が必要では。
- ④世田米駅の川側の階段が危険なため利用不能である。修繕を。
- ⑤高齢者の一人暮らしのサポートは。
- ⑥国道340号（火石・田谷間）の改良が進展していないのではないかと。
- ⑦農協が本来の機能を果たしているのか。
- ⑧すみた荘の待機者は。

議会放送は生放送で

坂本自治公民館

- ①シカ、ハクビシンに産直用の野菜に被害を受けた捕獲対策の強化を。
- ②防護柵や防護網の助成拡大を考えてほしい。
- ③遠野・住田線のバス運行は是非維持してほしい。
- ④遠野病院への足の確保に特段の配慮を。
- ⑤議会中継は生放送も行ってはどうか。2回放送があればよい。

県道金石住田線の整備を

五葉中自治公民館

- ①滝観洞インター開通後の観光の実態は。
- ②滝観洞までの県道が狭く整備されていない。
- ③診療センターに開業医の協力ができないのか。
- ④高齢者の生活環境が厳しい。地域の助け合いが必要ではないか。
- ⑤ハクビシンなどによる農作物の被害が多い。捕獲に報奨金を出しては。
- ⑥免許の更新に2万円必要。経済的に免許維持困難。

事業仕分けの影響は

天獄地区自治会

- ①政府の事業仕分けによる町政への影響は。
- ②無床化後、地域診療センターの今後はどうなるのか。
- ③中高一貫校の実現の可能性はあるのか。
- ④遊休農地、耕作放棄地の活用策が打たれていない。
- ⑤安全安心農産物認証制度はどうなっているのか。

地域課題で話し合う

- ⑥町道沿線の急傾斜で草刈り作業が危険な場所は町の作業班で実施を。

名古屋に植林すべき

小股公民館

- ①柏里地内の産業廃棄物置き場の境界線がわからないので住民に示せ。
- ②公民館前の残土が大量なので、大雪の際には公民館への通行が困難になる。
- ③三木の現在の経営状況や町への返済はいつからか。
- ④種山第2牧場や名古屋根牧場に植林してはどうか。
- ⑤酸素の生産量を把握して売り込んではどうか。
- ⑥柏里2号線の角にカーブミラーの設置を。
- ⑦馬場野の旧道の除雪をしてほしい。

木工団地の経営状況は

中沢公民館

- ①城内地域の林道へのゴミの投げ捨てが改善されていない。その後の対策は。
- ②中沢地区の国道107号は、交通量が増加している。追い越し禁止区域に指定できないか。
- ③木工団地の経営状況はど

旧農協本所の利用法示せ

両向自治公民館

- ①旧農協本所の利用方法はどうか。
- ②町有林はどの位切つて、どの位売っているのか。
- ③住田町は自立といっているが、三木の再建にかかっているのではないかと。

金成地区の河川改修望む

大股、中井公民館

- ①シカ、ハクビシンの被害が拡大し困っている。防護網、電気柵の助成を。
- ②沿岸南部広域環境衛生組合の新施設建設に伴う町負担額はいくらか。
- ③大股地区公民館裏のプール、旧校舎の解体を。
- ④ダム下流の金成地区の河川改修を早めて欲しい。



△ 多くの要望が出されたハクビシンによる農作物被害対策

どうなりましたあの提言

特集 町と、議会と、町民は ③〇

追跡：一般質問のその後

一般質問は、議員に与えられた重要な権限の一つですが、ここでは「追跡：一般質問のその後」として、過去の一般質問が町政にどう反映されているのかをお知らせします。掲載内容は平成15年以降の質問から議会広報編集特別委員会で1項目を選び、その後の状況などを追跡しました。



△ 新たな公共交通対策に向けて、自治公民館や高齢者教室、PTAなどとの意見交換会が開催

「町民の足」確保対策を早期に

本町の高齢化率は38.1%、10年後には42%を超すと予測されている。このような状況下、高齢者や交通弱者に対する「町民の足」の確保を図り、健康で安心して暮らせる環境を整えていかなければならない。

質問

各課による検討委員会を開催

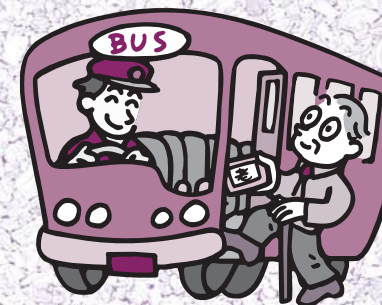
現在、各課による検討委員会を開催し、中長期的な視点に立って先進事例の研究や導入した場合の検証を進めている。早急に対応すべきこととして、運行時間や路線間の見直し、町が独自に展開する運行サービスのあり方について検討している。

答弁

平成22年4月から実証運行を開始

その後、町では、地区や高齢者教室などでの意見交換会を開催。世田米地区にあっては路線バスの維持を基本とし、有住地区にあっては町営バスの導入（川口ー上有住駅間、八日町ー遠野間）を提案した。最終的に有識者による地域公共交通会議での協議を経て、平成22年4月からの実証運行を見込んでいる。

その後



高齢者に優しい運行を

私の意見を聞いて!



西村キヨ子さん
(世田米字下大股)

私たち高齢者にとって、路線バスなどの公共交通は、日常生活、特に通院には欠かすことのできない足となっています。今回、地域事情の変化などから総合的に見直し、新たな交通サービスが来年度から運行されることでの期待が持たれます。今後、停留所までの区間や、乗降の際の難儀など、身近な改善策も考慮に入れた施策を望みます。

郵便局や買い物にも



高木竹男さん
(下有住字火の土)

母が通院で患者輸送車を利用していません。バスがないと仕事を休んで送迎しなければならぬので、助かります。4月からの新たな交通体系は、郵便局や農協、買い物と、バス利用の幅が広がり、便利になると思います。県交通との兼ね合いがありますが、世田米への直通バスがあれば、さらに便利だと思います。

議会の傍聴

出掛けてみませんか



あなたにも町がみえてきます

■定例会は、年四回（3月、6月、9月、12月）開かれ、主に、3月は新年度予算、6月が契約関係、9月は決算、12月が条例、補正予算などを審議します。
■臨時会は、必要に応じて開かれます。主に契約関係や条例、補正予算などを審議します。
■詳しくは、町議会事務局（電話46-2111）へお問い合わせください。

住田町議会のホームページ

URL <http://www.town.sumita.iwate.jp/>
Email gikai@town.sumita.iwate.jp

農林業の

展望を

早く示して

水野勝則さん

(上有住字上大畑)



・議会中継を見ての感想は
議会放送により、議会が
身近に感じられるようにな
りました。放送が長時間に
なるので、たとえば、2時
間くらいに分けて3日間放
送するか、昼の時間帯な
どに放送するか、考えて
いただきたいです。

・町にひとこと

町は自立を目指していま
すが、自立は、住民の生活
の自立があつてこそと思
います。基幹産業である農林
業が厳しい経営状況にある
中、政権が変わり、今後が
不安です。将来の農林業の
展望を早く示し、中山間地
でも十分に生活できる対策
をお願いします。農業は土
づくり3年と言われ、長い
時間かけて準備が必要とな
ることもあります。実現する
ための支援も合わせて、誘
導が必要と考えます

ついて、ご説明します。

教育委員会の委員につい

ては、地方教育行政の組織
及び運営に関する法律第4
条第1項に基づくもので、

「人格が高潔で、教育、学
術及び文化に関し識見を有
するもの」のうちから、地方
公共団体の長が、議会の同



12月議会定例会において、
教育委員を任命することの
同意が議決されましたが、
人事案件と議会との関係に

公民館

婦人部に

一本化を

鈴木イツ子さん

(世田米字川向)



・議会放送をみますか

町婦協の研修会で2回ほ
ど議会傍聴をしたことがあ
りますが、家で住田テレビ
を見ている方が気が楽です。
再放送があればと思います。
・ふだん考えていることは
順送り人事が慣習化され
ている中、仕方なく婦人部
の役員を務めさせていただ
いております。きびしい社
会環境の中、仕事をしながら
の役員の仕事は大変です。
地域社会への奉仕と努めて
考えるようにしております
が、感情を抑えることがで
きない時もあります。特に
必要な人員の確保には、い
つも難儀しております。婦
人部の活動には、大きく分
けて、町婦協と公民館の二
つありますが、人員不足の
折、公民館婦人部一本にし
ることを進言させていただ
きたいと思っております。

選挙管理委員会の委員の

選任については、議会にお

ける選挙によることとされ
ており、委員と同数の補充
員も同時に選挙されます。

議会推薦の農業委員につ
いては、町長からの推薦依
頼により、議会において選
任され推薦されるものです。

あとがき

(1月12日記)

▼新年あけましておめでと
うございます。元旦早々の
積雪となり、除雪車の出勤
など、今年は雪の多い年
なるのかなあ、と除雪費を
心配しているこの頃です。

▼12月定例議会は7人の議
員が一般質問を行い、町政
課題への取り組みについて
質問しました。質問の内容
には「住民と議員との懇談
会」に出された意見や要望
なども多く含まれ、住民の
声が大いに反映されている
と考えます。

▼新政権が誕生して100
日以上が経過しました。こ
れまでの政治の仕組みを見
直し、地方重視の政治へと
変わろうとしています。当
然改革には、いつも「痛み」
が伴いますが、住民の納得
いく施策に期待するもの
です。

▼新型インフルエンザは、
まだ、治まる傾向がありま
せん。手洗いなどの予防を
徹底し、この一年、健康で
元気に過ごしましょう。良
い年でありますように。
(水野英哉)